

令和7年2月12日  
九州地方整備局  
熊本河川国道事務所

## 全国初！白川水系内外水統合型の 多段階浸水想定図・水害リスクマップを公表 ～流域治水の取り組みを更に推進～

土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択など、流域治水の取組を推進することを目的として、全国で初となる、白川の国管理区間からの氾濫と下水道等からの内水氾濫を考慮した「白川水系内外水統合型の多段階浸水想定図及び水害リスクマップ」を公表します。

また、これを活用した流域治水の取り組みのモデルケースとして、熊本市、鶴屋百貨店と連携し、水害版企業BCP策定に向けた取り組みを開始します。

### ※多段階浸水想定図とは

- ・高頻度から低頻度で発生する降雨規模毎（年超過確率 1/10、1/30、1/50、1/100 及び 1/150）に作成した浸水想定図

### ※水害リスクマップとは（浸水頻度図）

- ・多段階浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m以上（床上浸水以上）、3.0m以上（1階軒下浸水以上））に重ね合わせて作成した図面

### ※水害版企業BCPとは

- ・水害時に従業員や顧客を守り、水害後も企業として重要な業務が出来るよう必要となる対策をまとめたもの

○白川水系内外水統合型の多段階浸水想定図・水害リスクマップについては、こちらに掲載しています

URL：<https://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/bousai/tadankaisinsuisouteizu.html>

### 《参考》鶴屋百貨店の水害版企業BCP検討スケジュール（案）

- ・令和7年 4月～ワークショップ形式にて検討（3回程度）
- ・令和7年 6月 水害版企業BCP策定、当年出水期から運用開始（目標）
- ・令和7年 12月 水害版企業BCP作成マニュアル公表

### 【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

電話 096-382-1111（代表）（平日昼間）

技術副所長 後田 浩二

流域治水課長 村上 裕明

流域治水課専門官 藤川 保則

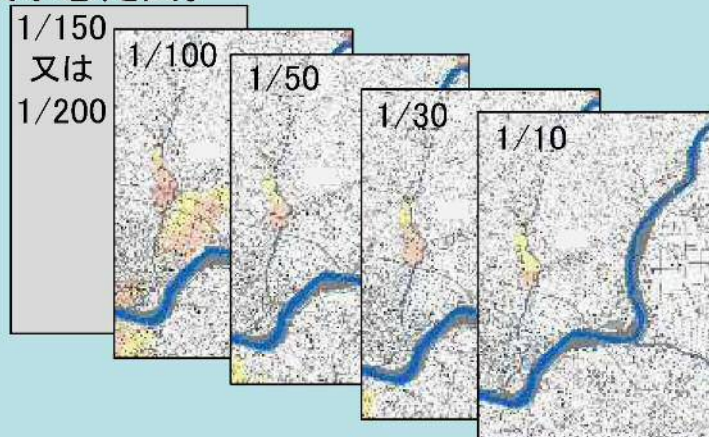
# 内外水統合型の水害リスクマップについて

国や都道府県では、これまで水防法に基づき住民等の迅速かつ円滑な避難に活用する水害リスク情報として、想定最大規模降雨を対象とした「洪水浸水想定区域図」を作成し公表してきました。

国土交通省では、これに加えて、**土地利用や住まい方の工夫、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討及び企業の立地選択**など、流域治水の取り組みを推進するため、比較的発生頻度が高い降雨規模も含めた複数の降雨規模毎に作成した、白川の国管理区間からの氾濫と下水道等からの内水氾濫を考慮した、浸水想定図（「多段階の浸水想定図」）と、それらを重ね合わせて、浸水範囲と浸水頻度の関係を図示した「水害リスクマップ」を作成・公表することとしました。

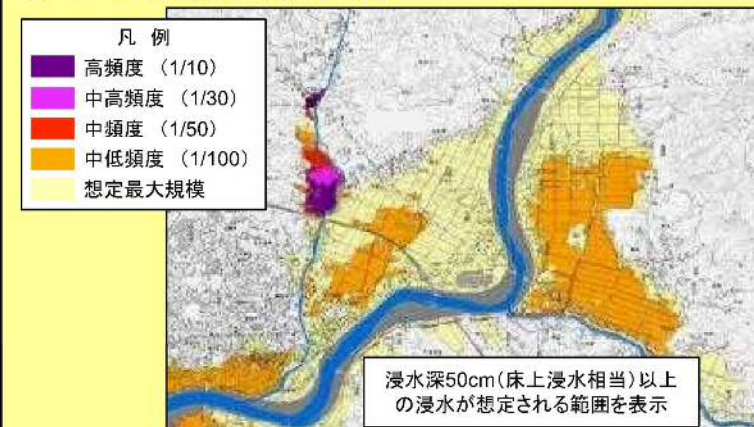
## 【多段階の浸水想定図】

想定最大規模に加え、高頻度から中頻度で発生する降雨規模毎（1/10、1/30、1/50、1/100、河川整備の計画規模（1/150又は1/200））に作成した浸水想定図。



## 【水害リスクマップ】

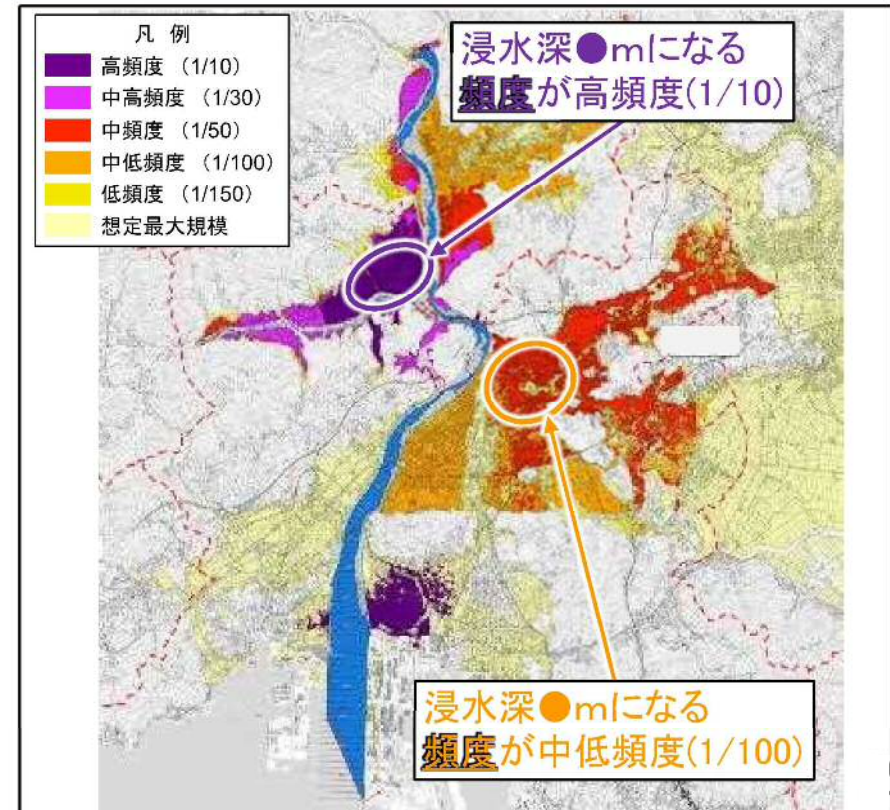
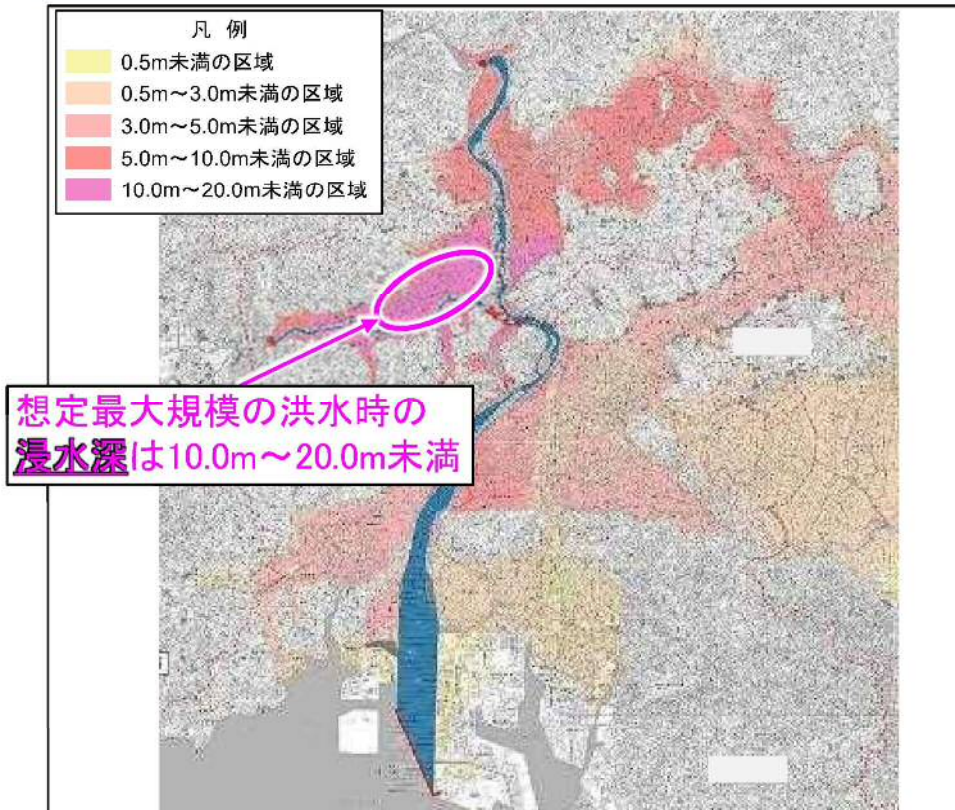
多段階の浸水想定図を用いて、降雨規模毎の浸水範囲を浸水深毎（0.0m以上、0.5m以上（床上浸水）、3.0m以上（1階居室浸水））に重ね合わせて作成した図面。





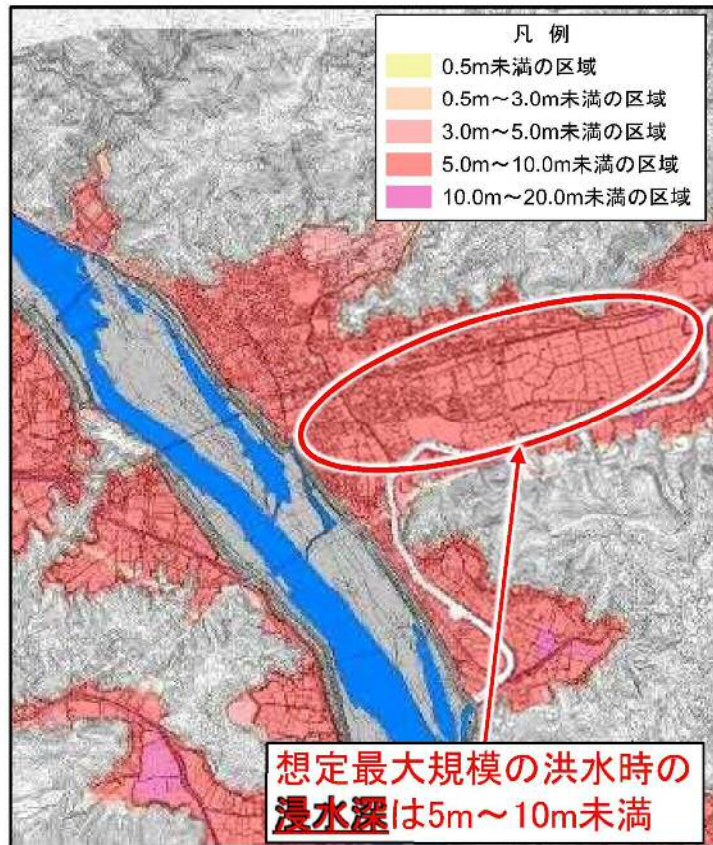
# 洪水浸水想定区域と水害リスクマップの違い

	洪水浸水想定区域図	水害リスクマップ (浸水頻度図)
表す情報	浸水範囲、浸水深 (m)	浸水範囲、浸水頻度 (〇〇年に1度程度)
主な用途	避難行動	防災まちづくり、企業立地選択等
降雨条件	想定される最大規模の降雨	発生頻度の異なる降雨
河道の時点	現在	現在

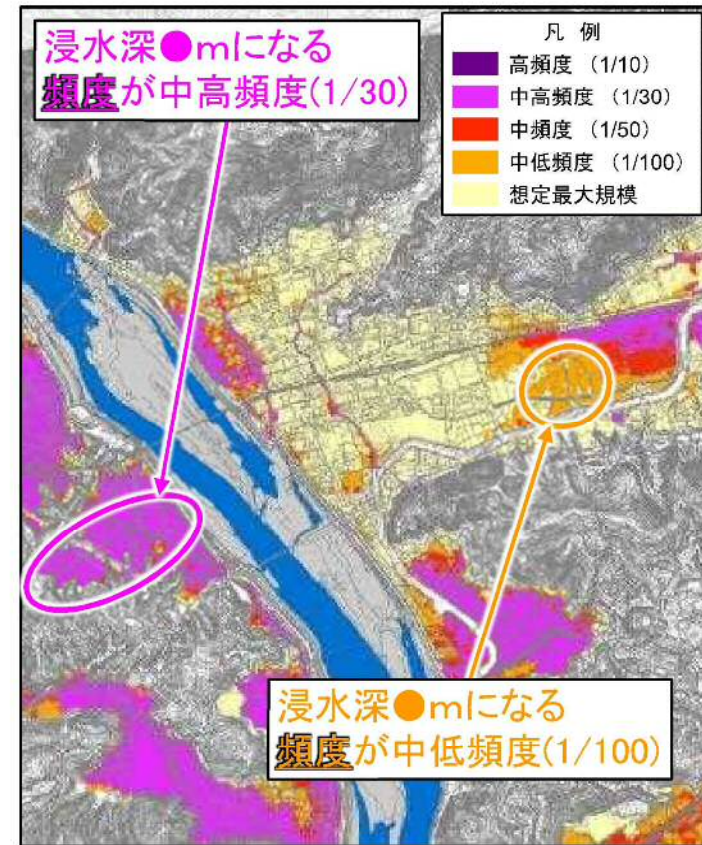
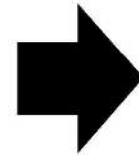




# 洪水浸水想定区域と水害リスクマップの違い



洪水浸水想定区域図  
(想定最大規模)

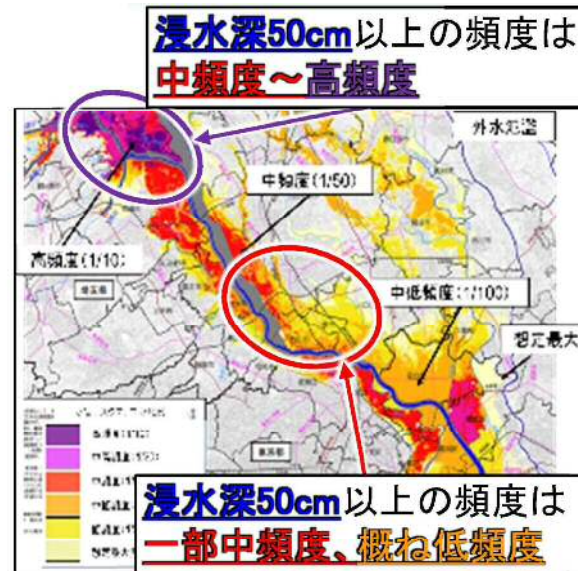
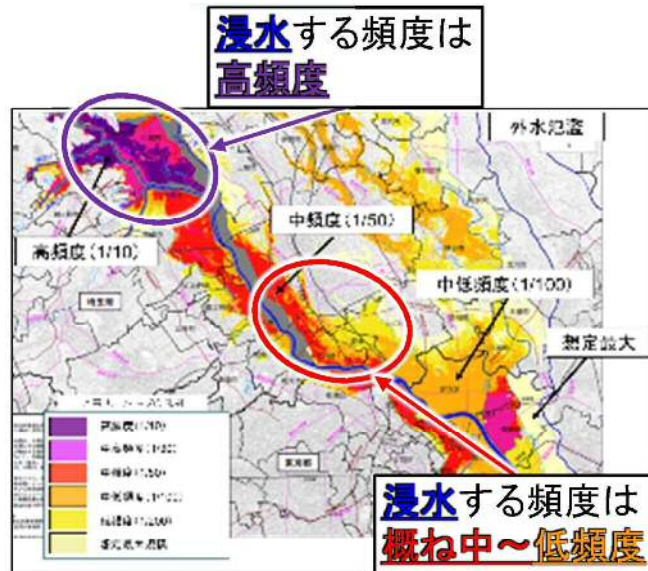


水害リスクマップ  
浸水深3m以上(1階居室浸水相当以上)

- 洪水浸水想定区域図は、最悪の事態を想定して命を守るという観点から、避難が必要となる場所と安全な場所を把握することを目的としています。
- 水害リスクマップでは、降雨の発生確率ごとの浸水範囲を表示することで、**中小規模の洪水でも比較的浸水しやすい場所が把握できます。**



# 水害リスクマップの見方・活用例



3つの図を並べて見比べる

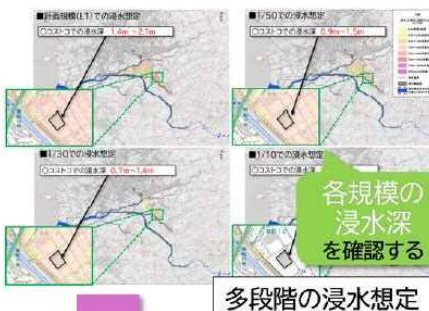
- ⇒ **【土地利用や住まい方の工夫に利用する場合】**  
居住スペースや1階をピロティ構造にするなど、建築構造の参考にするなどの活用が考えられます。
- ⇒ **【企業立地選択等に利用する場合】**  
浸水頻度の高い場所への施設の立地を避けるほか、浸水確率を踏まえて事業継続に必要な資機材を2階以上に移動する、止水壁を設置するといった対策の検討に活用することが考えられます。
- ⇒ **【水災害リスクを踏まえたまちづくり・避難所設置に利用する場合】**  
立地適正化計画における防災指針の検討・作成への活用などが考えられます。



# 水害版企業BCP策定

災害等において重要な事業を中断させない、中断しても可能な限り短期間で復旧させることを目的として、水害版企業BCP(事業継続化計画)策定を支援する取組を、関係自治体と連携して行っています。

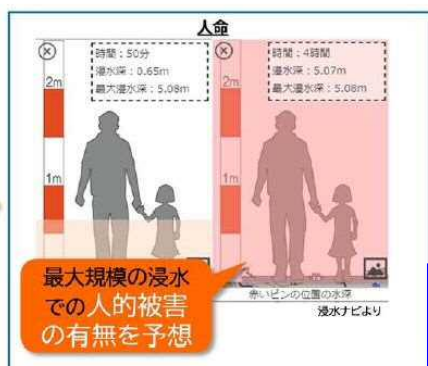
## 地形や浸水に関する情報の整理



確認した浸水深は基本シートに記載

想定される浸水深	・想定最大規模	3~5m
	・150年に一度の洪水	1~3m
	・100年に一度の洪水	1~3m
	・50年に一度の洪水	1~3m
	・30年に一度の洪水	0.5~1m
	・10年に一度の洪水	浸水なし

## 企業や周辺での浸水リスクの想定



## いつ、誰が対応するのか整理

ケース	種別	ステップ1		ステップ2		ステップ3	
		想定される被害		重要な対応	具体的な対応内容		担当者
		対象とする洪水規模	被害内容		事前対策	事後対策	
就業時間前の対応	情報収集	—	—	災害情報の入手	情報入手手段を決めておく	ラジオ・インターネットで情報収集する	〇〇店長(副:〇〇副店長)
	人的被害関連	想定最大	従業員の被害	営業中止の判断	営業中止基準を決めておく	営業中止を判断する 営業中止を従業員に通知する	〇〇店長(副:〇〇副店長) 各部長
就業時間中の対応	情報収集	—	—	災害情報の入手	情報入手手段を決めておく	ラジオ・インターネットで情報収集する	〇〇店長(副:〇〇副店長)
	人的被害関連	想定最大	従業員の被害	営業中断の判断	営業中断基準を決めておく	営業中断を判断する 営業中断を従業員に通知する	〇〇店長(副:〇〇副店長) 各部長
				店内にいる従業員への避難誘導	避難場所・避難ルート・避難誘導体制を決めておく 避難訓練を行う	店内従業員に避難放送を行う 店内従業員を避難誘導する	総務部〇〇,〇〇(副:〇〇,〇〇) 総務部〇〇,〇〇(副:〇〇,〇〇)
				従業員の安否確認	安否確認ツール(メール等)の試験運用する	安否確認ツールによる安否確認を行う	総務部〇〇,〇〇(副:〇〇,〇〇)
来店客の被害	来店客の被害	来店客の避難誘導	避難場所・避難ルート・避難誘導体制を決めておく 避難訓練を行う	来店客に避難放送を行う 来店客を避難誘導する	来店者対応係〇〇,〇〇(副:〇〇,〇〇) 来店者対応係〇〇,〇〇(副:〇〇,〇〇)		



ARで浸水被害状況をイメージ(水害の自分事化)



ワークショップで議論